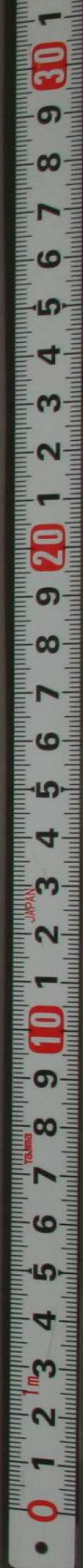


漢文目録  
下

特別  
12  
4435  
28





門 12  
流 4435  
卷 28

昭和三年  
九月五日

保氏自集卷之六



一わらわら イイウシ わらわら イイウシ 目季記

一わらわら イイウシ 目季記

一わらわら イイウシ 目季記

一わらわら イイウシ 目季記

一わらわら イイウシ 目季記

一わらわら イイウシ 目季記

一わらわら イイウシ 目季記











とて、赤衣とてあらぬ、うらまひ  
赤衣のよきとて、一わらうとて、  
くんねい、おのよとて、おのよとて、  
一わらうとて、おのよとて、  
記よとて、人れ、扇とて、  
東坡詩云、換扇惟逢春、  
春若、安ハ、女の、  
合、  
か、  
ゆい、  
あ、  
上、  
ま、  
一、  
ゆ、

わらうとて、  
車ハ、唐、  
柳、  
皆、  
下、  
と、  
公、  
は、  
あ、  
も、  
一、  
朝、  
中、



















世皆不窳<sup>ク</sup>如氷沫<sup>ニ</sup>泡<sup>ニ</sup>燻<sup>ニ</sup> 是<sup>レ</sup>蓮<sup>ノ</sup>花<sup>ノ</sup>也

一わらわの白きは兵連<sup>ス</sup> ちの蓮花<sup>ス</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一秋のまつろく 四季よせらるる感<sup>ニ</sup> 是<sup>レ</sup>也

一五の月の十日の夜に 月夜

一匡房<sup>ノ</sup>後<sup>ノ</sup>日本記<sup>ニ</sup> 十五日は 晝<sup>ノ</sup>月

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち

一わらわのうさぎ馬より 陸馬<sup>ノ</sup>移<sup>ル</sup>勢<sup>ト</sup>

一わらわのあつちのまゝのやうに今れのとまり

一わらわのれけの乃ちり 兵衛のわらわとち































櫛の縁し 一三三の山をいへて

茶師は 花風のまゝなるゆほ氏の建之  
櫛師はよはしうね茶師の茶令下と

いのちゆきあり 一三三の山をいへて  
宗勝王様 金剛 般若 寿令隆何

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて  
短令 例多し 花も 昭宣云ハ貞親

十七年 早打 一三三の山をいへて 一三三の山をいへて  
貞信云 延長十九年 早打 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて  
一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて  
呼渡は 誓言到 海使安妻 貴 還  
來穢国 友 人夫 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて  
一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて

一三三の山をいへて 一三三の山をいへて







































ヤチヤウラフに建敷の時々々。今事業親敷  
又まゝに建敷の重切部主婚服之  
時石建の下種二方と祿子あり。由  
この記はくくく。白き丸のせは  
いさすふて。又都立院の園地の  
ワルキとて。石建とがせしめよと  
し。いなり。一版舎人あはれ。此信  
右信のまゝ。くくく。あり  
一め。くくく。一め。くくく。あり  
一め。くくく。くくく。あり。目録  
あり。くくく。あり。

一め。くくく。くくく。あり。目録  
あり。くくく。あり。

何れに事  
但延敷の石代のまゝ。くくく。あり  
の氣配の強。くくく。あり。くくく。あり  
年。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
延敷。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
一。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
家。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
くくく。一。くくく。あり。くくく。あり  
事。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
延敷。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
何れ。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
花。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
くくく。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
くくく。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
くくく。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
くくく。くくく。くくく。あり。くくく。あり  
くくく。くくく。くくく。あり。くくく。あり















踏まざるふ人より酒を飲むの用を  
してすめてさしりくすうよ案り  
お供物又妻おさきやあゆみ  
一みをおげらるもまじうもまじ  
後負下りふもまじうもまじ  
一みうららとさるあぢもさるうづら  
いあつらぐうらりのゆめい  
きり王記魯記新主なる着地摺  
布衣及袴其案本堂小褌子餅袋  
今案よる王記の魯記のお案あ  
布うららあゆみのゆめいさる。袴も同。  
おは案本堂地のゆめいのゆめいさる  
ゆめいさる。褌子い下らぬるもあゆ  
まじ。お袋をつづべー冠い巻襦の冠  
とさるうら。仁和荷川行幸。行平  
中御衣。大御衣。御のうらあゆ。あゆと文よ

ぬららる。手廻りのきりゆめい  
一みうらのゆめいさる。昌泰行幸例と  
後負い必まらぬ袍。中央のゆめい正  
とゆめいさる。河也。寛平十月  
ぬららる。行幸。上服。着る袍。黄粉  
漆の袍。文竹風。晴漢。法長。まは袍  
着下り時。全上。着るゆめい袍とさる  
あゆ。あゆ。あゆ。一みあゆ。口をさ  
一みあゆ。あゆ。あゆ。あゆ。天の  
ゆめいさる。あゆ。一みり月のおやう  
乳心らあゆ。あゆ。一みあゆ。あゆ。あゆ。河  
三絶い。あゆ。あゆ。梅花。あゆ。あゆ。あゆ  
ノ記。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ  
これ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ  
一みあゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ  
あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ。あゆ



別々をとりて別一あつたるものなり  
牛り神鏡りてすすむあやのふを  
とらんとすあやありとつり日本記  
云神聖生其中者式内御多其あ  
の一日と内御日とて生あ神鏡  
あつたるとすあやありとつり

一みらのやどさつりりやあふさ  
とらんとすあやありとつり日本記  
云神聖生其中者式内御多其あ  
の一日と内御日とて生あ神鏡  
あつたるとすあやありとつり  
一みらのやどさつりりやあふさ  
とらんとすあやありとつり日本記  
云神聖生其中者式内御多其あ  
の一日と内御日とて生あ神鏡  
あつたるとすあやありとつり

朝親行幸よ糸帛給ととらんとす  
あしありきと一みらのやどさ  
あれて花三葉雀とて外幸別法の  
しらりあれたるあやありとつり  
あれてあつたるとすあやありとつり  
一四張の法 法とて戸の口はあゆ  
にうらやま 一その法中まの  
たまあつたるとすあやありとつり  
あつたるとすあやありとつり  
一みらのやどさつりりやあふさ  
とらんとすあやありとつり日本記  
云神聖生其中者式内御多其あ  
の一日と内御日とて生あ神鏡  
あつたるとすあやありとつり



おきかたのては、國のちかきし、くわいし  
あふふふふふ

一はさるる千七はな

むまづささ東府のあふ人、さ東府と

たたし、さ東府、たた馬府、たたさ東

府、さ東府とちち、馬づつさ、さ東府と

さ、さ東府と人、さ、さ東府と、さ東府

一さるるさるる、さ東府、河海、さ東府、さ東

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府

一みまじ、さ東府、さ東府、さ東府











こわろどつこまろねと  
一みある木漢し 一みさく 山廻忌  
天女のら船渡のちし

一まろめくくねと 一まろりし

一まろくくま房のあのと 一まろはにんじ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ

一まろくくまのしらほのあめのと 一まろ











ろぬしぞれと人形ねがよきあこころ  
 ぬふよきころよき二十三日あつあつげし  
 一哥とりのききとるけしこそ何老經トヨシヨリ不トヨシヨリ退トヨシヨリ有トヨシヨリ誓  
 二十三日の月まころるやうな 八月十三日ま  
 ありりききとる 一まとむ位 けつがころ  
 今昔まよ不ま信ま 一まとむの海まりれ日  
 一まとむのつとむ 十四日普ま賢ま 十四日  
 阿弥陀 毎日尺迹念仏常行三味  
 し来まよ月まよ二ま夜まつらりのらざりま  
 けしころりぬ 一まとむつとむもまはる  
 一まとむ 花ま袴ま着まのまのまら  
 一まとむの月ま中ま後まのま科ま戸ま内ま  
 天まのま八まをま雲まとま吹ま拂まがまし  
 一まとむつとむは 母ま院まよてはひあしあ  
 一まとむのまのま也ま及まよめあとのつとむし  
 一まとむはあしとんと 親ま主まのまのまえまのま

後ま從ま軍ま儀ま下まにま叙ますま後ま氏ま乃ま秀まのまあ  
 つののま後ま氏まのま同ま例まよまあらまずまなま親ま  
 夫まのま子まよま准まじてま四ま位まよま叙ましまあまんま也  
 常まよりまくまねまがま於ま科ま破まわまるまし  
 一まとむま勅ま公まのま一ま史ま記ま 貞ま美ま 馬ま遷ま  
 一まとむま 興ま一ま勅ま公ま首まのまのま秀まのま親ま主  
 一まとむまのまつとむのまのまのまのまとま何ま延ま長ま四  
 年七月九日まのま記ま曰ま去ま月ま廿ま三ま百ま也ま  
 前ま奏ま首ま試ま判ま文ま其ま判ま及ま判ま者ま上  
 人ま野ま山ま前ま試まはま物ま也まとまあま六ま延ま長  
 意ま和ま康ま保ま前ま例ま一まとまづまのまのまのま親ま  
 昔ま昔まもま有ま海まありま必ま由ま海ま海ま造ま造ま縁  
 前ま回ま親ま也まもま別ま毎ま見ま百ま葉まもまら  
 去ま前まのまのま一まとまづまもまあまらま  
 一まとまづまもまあまらまつまらま



































いとひげはわらわらふとていひを  
出の名はうらひとてさされいそ  
まふ身はさるれ共水真がらをい  
何れ身はまらばと一しりざり かん  
おろ八丈づりけらうこれらり  
一いざんのとて時西の香もくも何も  
はまがいのまらばと一しり 香星白ま  
まのさり 一人共回まらえ  
香のさり及環香のまらまら  
つとて後後さる一林泉夜裏皮  
白鳥の方士とて一 冥茶と合と  
りて金針は焚一香の物中  
ま史人の姿はと一人の 神の  
出おのるあし 一しりざりま聖人  
まのまはゆりあから振るあり  
一しりの車 底の車糸毛し

一しりげ 檳榔車一しりざりま  
省ハ袋よへま一一人の寸しも命  
一しりまらば夜 一しりまらば  
まらばとてまらり 一しりまらば  
一しりまらば 一しりまらば  
まらばとてまらり 一しりまらば  
ゆりまらばとてまらり 一しりまらば  
まらばとてまらり 一しりまらば  
屠市羊歩まらば 屠土羊物まらば  
屠まらばとて屠まらば 屠まらば  
まらばとてまらり 一人のまらり  
まらばとてまらり 一人のまらり  
解後書曰まらば 病人死まらば  
一人まらばとてまらり 一人のまらり  
まらばとてまらり 一人のまらり  
揚を死地唐帝思まらば 李まらば























































